

平成 26 年度申請

「初級地域公共政策士」育成のための資格教育プログラム

「プログラム説明書」

「初級地域公共政策士」

プログラム名 京都学教育プログラム

実施機関名 京都大学

序章

プログラム概要（運営・実施体制）

プログラム名	京都学教育プログラム		
EQF レベル	レベル6		
構成科目数	22	取得ポイント数	12

実施機関名	京都大学		
実施部門	地域連携教育研究推進ユニット		
プログラム実施責任者	高見 茂		
プログラム担当者	高見 茂		
事務担当者	江上 直樹		
事務担当者連絡先	電話番号：075-753-3014	Email：egami.naoki.5c@kyoto-u.ac.jp	

資格教育プログラムで設定する学習アウトカム

達成目標		6-0-2 地域社会の改革や発展のための計画やプログラムの策定を、主体的に実行することができる 6-0-3 地域社会における様々な課題に対応するために必要な知識・技能・実践方法を主体的に選択し実行することができる
	知識	6-1-1 グローバル化する世界と地域社会の関係を理解している 6-1-4 地域社会における様々な活動と、活動をこなす主体との関係の実践的把握
	技能	6-2-1 地域における複雑な課題群について、その解決に必要な要素の特定と解決のためのプログラムの提示及び適用ができる
	職務遂行能力	6-3-2 特定の計画・事業の全プロセスを責任を持って推進し、構成員を組織的に活用することができる

1 資格教育プログラムの目的・教育目標・学習アウトカム

1-1-I. 目的・教育目標

「大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり」で示されているように、我が国は現在、社会の変革が求められる時代にある。そしてこの時代的要請に対応しうる人材の育成が急務である。社会変革期を担いうる人材には、高度で精緻な専門的知識のみならず、その活用力、深い洞察力、広い俯瞰力、豊かな創造力、的確な判断力、迅速な行動力、積極的かつ建設的な対話力、相乗性をもった協働力、そして強い責任感、高い倫理観といった全人力を有することが求められる。

こうした社会変革期を担いうる人材育成に応えるにあたり、本学にて実施する京都学教育プログラムでは、京都が抱える現実課題をグローバルな広い視野のもとで捉え、京都の新たな可能性を創造し、それを実現することを通じて、「京都ビジョン 2040－30年後の京都の姿」においても提唱されている「世界交流首都・京都」という未来像の実現に貢献できる人材の育成をその目的としている。

この人材育成の目的を達成するために、本プログラムは、越境講義科目群「まなびよし」と越境実習科目群「いきよし」の二つの科目群から設計されている。越境講義科目群「まなびよし」では、学内での講義およびグループワークを中心に、各自の専門分野を超えて京都に関する様々な知識を学習することで、京都が抱える課題について多面的に観察・分析できる力を修得させることを目標としている。越境実習科目群「いきよし」ではフィールドワークを中心に、課題を抱えている現場で活動している人々との交流を通じて、それまで学んだ知識を具体的に実践に活かし、応用できる技能・職務遂行能力を養うことをその目標としている。

1-1-II. 学習アウトカム（序章にて記入済みのため、省略する。）

1-1-III. 資格教育プログラムで育成する人材像

本プログラムでは、越境講義科目群「まなびよし」と越境実習科目群「いきよし」を通じて育成する人材像として、特に以下の5つの能力を身につけた人材の育成を目指している。

- (1)責任力：自らが京都のあるべき未来像を創造し、実現する責任を担う一主体であることに自覚的である態度。
- (2)俯瞰力：京都が抱える現実課題、あるいはこれまで実施されてきた地域志向の取組を、長期展望とグローバルな広い視野、俯瞰的視野のもとで捉え直す力。
- (3)創造力：俯瞰的に捉えた課題に対して、本学が有する先進的「知」を活用しつつ、京都の新たな未来像、新たな課題解決策を創出できる力。
- (4)現場力：創出された新たな未来像、新たな課題解決策を、資源が限られた条件のもとで実行可能な形で確実に実現させる実務能力。
- (5)協働力：新たな未来像、新たな課題解決策の創出に向けて学生同士、教員、京都地域関係者と共に議論し、また創出された方策等を学生同士、教員、京都地域関係者と協力して実現する力。

参加学生がこれらの能力を身に着け、将来的に公共機関や民間企業に限らず、各々の職場において、学際的・複眼的に解決すべき課題を抽出し、それらの課題について適切に対応できる人材となることを期待している。

1-1-IV. プログラムの広報

プログラムの対外的な広報については、「ホームページによる広報」「SNS サービスを利用した広報」「チラシの配布による広報」を実施している。具体的には以下のとおりである。

「ホームページによる広報」については、以下の URL において専用のウェブサイトを作成している。

<http://www.coc.kyoto-u.ac.jp/>

「SNS サービスを利用した広報」については、facebook を活用し日々の実践報告を行っている。また、「いいね！」数も京都大学関連アカウントの中で京都大学の公式アカウントに続き 2 番目の多さとなっており、現状の「いいね！」数の増加ペースから考えると年度末には、公式ページ以上の数になる可能性が高い。

<https://www.facebook.com/coc.kyoto.univ>

「チラシの配布による広報」については、学内で開催されるイベント時に、参加者にチラシを配り学外者への周知を図っている。チラシの現物については資料として添付する。

2 資格教育プログラムの内容

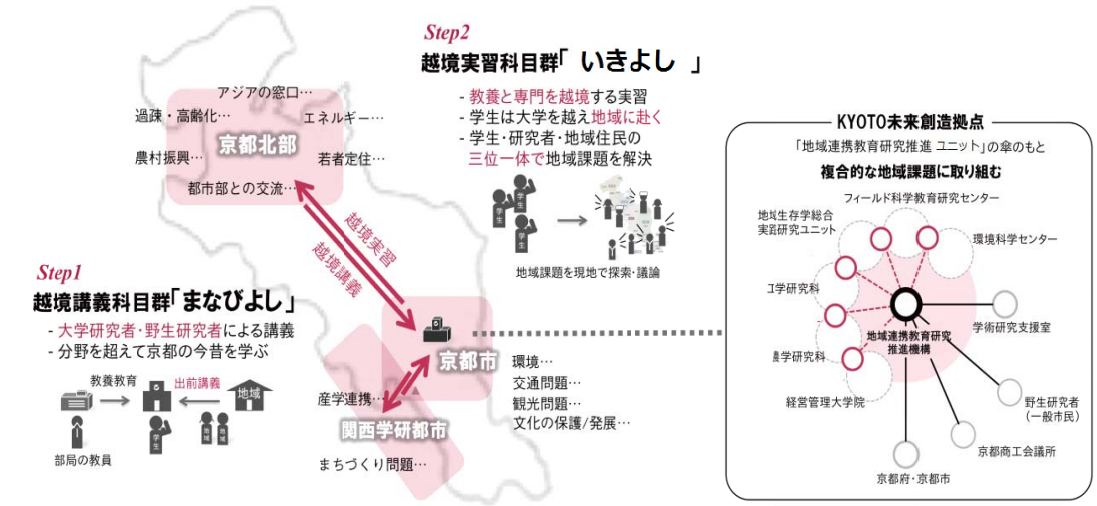
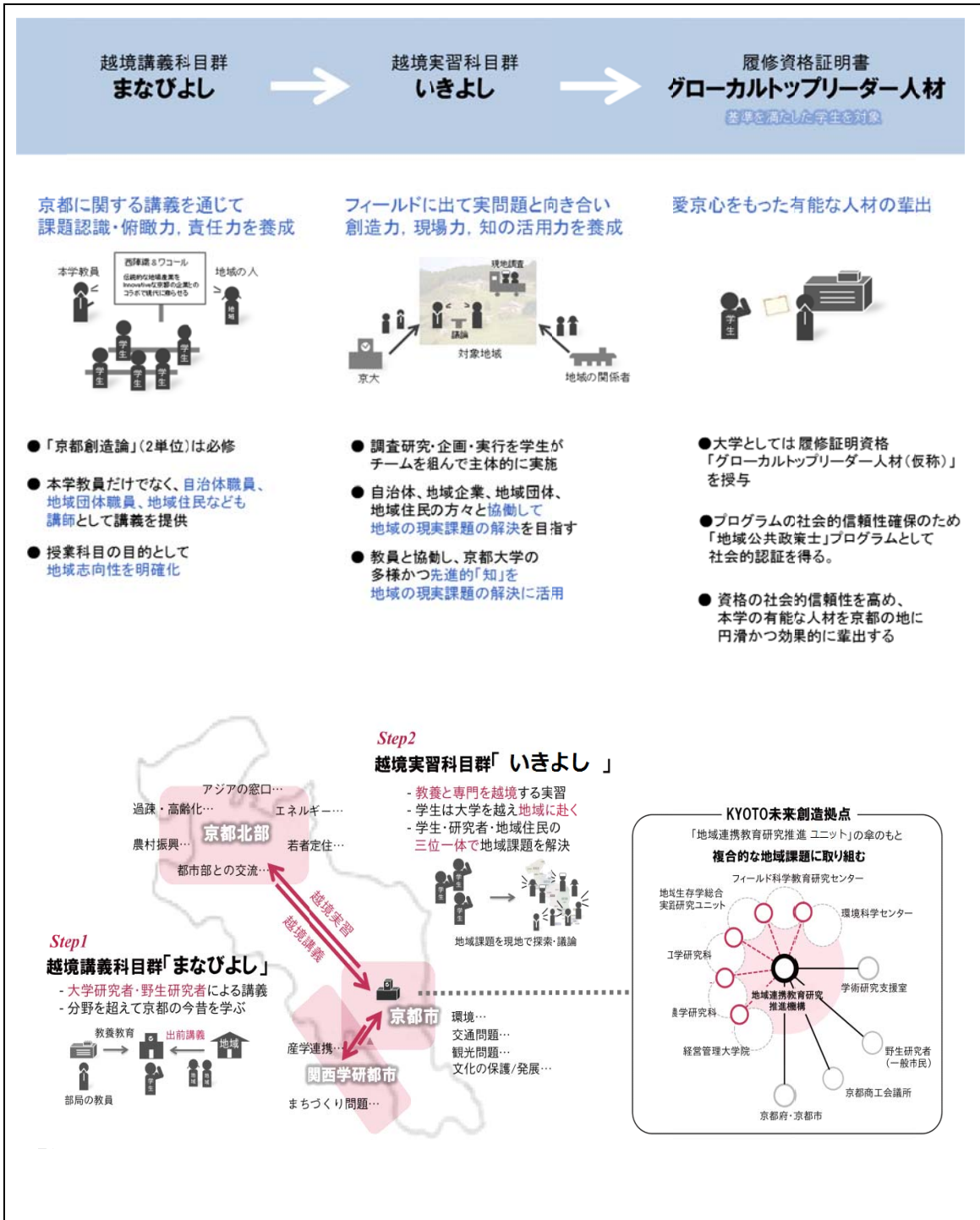
2-1-I. 資格教育プログラムに設置する科目

構成科目名		担当者名	ポイント	履修時間	開講時期	科目設定	プログラム内における構成科目の位置づけ
1	京都創造論	高見 茂	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	本プログラムのコア科目として、地域公共政策士として必要な公共性、京都が抱える課題の概要、研究のための基本的な方法論について学ぶ。また、グループワークを通じて、参加学生が各々もっとも関心の深いテーマを見つけ出し、他科目の選択および各自の今後の学びにつなげる。
2	文化・科学一体型コミュニケーション論	高見 茂	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	「けいはんな学研都市」が抱える課題について現地の関係者と議論を交わしながら学び、課題解決のための「技能」を養うことにつなげる
3	地理と古典を活かした京都の旅の創造と提案 A	安藤 哲郎	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	京都の地理・歴史を学び、現状の京都の課題につながる基本的な「知識」を学ぶとともに、学んだ内容を「観光」という視点から応用させる「技能」「職務遂行能力」を養う
4	地理と古典を活かした京都の旅の創造と提案 B	安藤 哲郎	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	京都の地理・歴史を学び、現状の京都の課題につながる基本的な「知識」をより詳細に学ぶとともに、学んだ内容を「観光」という視点から応用させる「技能」「職務遂行能力」を養う
5	京野菜の栽培を習う	間藤 徹	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	「京都の農業」が抱える課題について基本的な「知識」を学び、実際に京都の農家の方から指導を受けつつ京野菜の栽培体験をすることで、課題解決のための「技能」「職務遂行能力」を養うことにつなげる。
6	京都学のための科学	小山田耕二	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	課題解決のための科学的な手法を学び、物事を多面的に観察・分析するための基本的な「知識」「技能」「職務遂行能力」を身につける。
7	京都大学の歴史	西山 伸	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	京都大学の歴史という視点から京都という土地の歴史を学び、大学と地域の連携のあり方についての「知識」を身につける。
8	日本史 I A	西山 良平	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	日本史の中でも、平安京を中心として京都に関する歴史を中心に学び、現状の京都の課題につながる基本的な「知識」を身につける。
9	日本史 I B	西山 良平	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	日本史の中でも、平安京を中心として京都に関する歴史をより詳細に学び、現状の京都の課題につながる基本的な「知識」を身につける。

10	総合生存学入門：人文・社会科学における京都の知・世界の知	泉 拓良	4	45	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	京都において発達した学問・研究が世界にどのような影響を与えたのかを学び、グローバルな視点の重要性を学び、世界と地域社会とのつながりについての「知識」を身につける。
11	環境学Ⅰ	酒井 伸一	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	「京都の環境」が抱える課題について基本的な「知識」を学び、過去の事例を学びつつ問題解決のための「技能」を身につける。
12	環境学Ⅱ	酒井 伸一	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	「京都の環境」が抱える課題についてより詳細な「知識」を学び、過去の事例を学びつつ問題解決のための「技能」を身につける。
13	博物館で実践する地域とのつながり	大野 照文	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	「京都の社会教育・生涯教育」という視点から京都および京都大学が抱える課題についての「知識」を学び、京都大学博物館というフィールドを活かし具体的なプランの設計を行うことで、課題解決のための「技能」「職務遂行能力」を身につける。
14	街中の美「京都の看板」	池田 聖子	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	「京都の景観」が抱える課題について、街中の看板という視点から「知識」を学ぶとともに、諸外国の事例を学ぶことでグローバルな視点身につけることに繋げる。
15	街中の美「京都の看板」	池田 聖子	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	同上。
16	京都の文化を支える森林：森林の持続的管理に関する地域の知恵と生態学的知見からの検証	徳地 直子	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	「京都の森林」が抱える課題について基本的な「知識」を学ぶとともに、芦生研究林というフィールドを活かして、関連自治体と連携しつつシカ被害防除等の実習を行うことで、課題解決のための「技能」「職務遂行能力」を身につける。
17	京滋の在地に学ぶ実践型地域研究	安藤 和雄	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	「京都北部の農村地域」を対象に、農村地域が抱える課題についての「知識」を学ぶとともに、関連自治体と協力しつつ現地での実習を行うことで課題解決のための「技能」「職務遂行能力」を身につける。
18	ブータンの農村に学ぶ発展のあり方	安藤 和雄	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	「農村の課題」という視点から、外国研究者の京都への受け入れ、外国の農村地区への実習を行うことで、グローバルな視点の重要性について学ぶとともに、共同実習・共同研究を行うことで課題解決のための「技能」「職務遂行能力」を養う。
19	自然と文化－農の営みを軸に－	竹田 晋也	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	「農林業」についての京都が抱える課題と諸外国が抱える課題について学ぶことでグローバルな視点の重要性について学ぶとともに、受講生同士の討論と通じて課題

							解決につながる「知識」「技能」の定着を図る。
20	学校論ゼミナール	西岡加名恵	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	「京都の学校教育」を対象に、京都府下の学校と連携して、京都の学校教育が抱える課題についての「知識」を学ぶとともに、協力学校の生徒と共同して問題に取り組むことで、課題解決のための「技能」「職務遂行能力」を養う。
21	京都の地域リソース 実践学	渡邊 洋子	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	「京都の社会教育・生涯教育」という視点から、特に京北地域の生涯学習施設の課題についての基本的な「知識」を学ぶとともに、現地に赴き関係者と課題可決のためのプランを計画することで、課題解決のための「技能」「職務遂行能力」を養う。
22	理学と社会交流 I	常見 俊直	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	大学の研究と京都とのつながりについての基本的な「知識」について学ぶとともに、サイエンスカフェ等の社会交流活動を実践することで、課題解決のための「技能」「職務遂行能力」を養う。
23	理学と社会交流 II	常見 俊直	2	22.5	前期・後期・通年 集中・不定期・その他	必須・選択・共通科目 AL要素を含む科目	大学の研究と京都とのつながりについてより詳細な「知識」を学ぶとともに、サイエンスカフェ等の社会交流活動を実践することで、課題解決のための「技能」「職務遂行能力」を養う。

2-1-II. 資格教育プログラムの体系図



【図の説明】

京都学教育プログラムは、学生が越境講義科目群「まなびよし」と越境実習科目群「いきよし」を体系的に学修することを通じて、1-1-IIIに示す能力の育成を図るとともに、学生が活動主体として、本学が有する先進的「知」を活用し、各番組が設定する地域の現実課題の解決を図ることを目的とするものである。

越境講義群科目「まなびよし」では、越境実習科目群「いきよし」の基礎を培う場として、様々

な課題領域における京都の現状を学ぶ機会を提供する講義を、全学共通科目を中心に複数開設する。この科目のうち「京都創造論」は本プログラムのコア科目として、資格を取得するためには必修とする。

越境実習科目群「いきよし」では、学生が活動主体に位置づけられ、各科目が設定する課題について、教職員が支援をしつつ、グローバルな広い視野のもとで俯瞰的に考え、議論し、本学が有する先進的「知」を活用して京都の新たな可能性、そして当該課題の新たな解決方策を提案し、それを実行する。「いきよし」での一連の取組を円滑に進めるため、各科目の担当教員以外にも、地域連携教育研究推進ユニットが収集する地域課題等の情報を学生が十分に活用できる組織体制を整える。

「京都創造論」の受講時に当プログラムの資格取得を希望した者のうち、越境講義科目群「まなびよし」と越境実習科目群「いきよし」において既定の単位数（12単位）を取得した者について、大学としては履修証明書「グローバルトップリーダー人材（仮称）」を授与する。また、本プログラムの社会的な信頼性を高める一環として、「初級地域公共政策士」としての社会的認証を受けるべく申請を行う。

2-1-IV. アクティブラーニング (AL) 要素を含む科目の説明

科目名：京都創造論

担当者：高見 茂

①学習者が現場で体験する内容

本講義は、主に「1. 本学教員による調査・研究手法の講義」「2. 京都各地域にて活躍するゲストスピーカーによる講義」「3. 受講生グループによる現地調査および報告会」にて構成される。本講義の初めに受講生のグループ分けを行い、「1」「2」にて受講した内容を参考に、各グループは独自にテーマを設定し、そのテーマについて京都がどのような課題を抱えているか、文献調査および関係者へのインタビュー調査を実施する。受講生は、インタビュー調査を通じて、その現場が抱えている課題を学ぶ。

②学習者による主体的な活動内容

上述の通り、インタビュー調査を中心とした調査活動を実施する。また、講義の最終日にはその調査内容をまとめ、グループごとに発表を行う。

※具体的な地域や連携する団体

学生が設定したテーマにより様々である。ゲストスピーカーとして予定している、京都府知事、京都市長、その他関係団体の方々の協力を得つつ、地域連携教育研究推進ユニットが学生のインタビュー調査についてのコーディネートを行う。

科目名：文化・科学一体型コミュニケーション論

担当者：高見 茂

①学習者が現場で体験する内容

本講義は、主に「1. 本学教員による調査・研究手法の講義」「2. けいはんな学研都市にて活躍するゲストスピーカーによる講義」「3. けいはんな学研都市への現地調査」にて構成される。ゲストスピーカーとの対話と、けいはんな学研都市への現地調査から、同地域が抱える課題についての整理を行う。

②学習者による主体的な活動内容

上述の通り、けいはんな学研都市の関係者へのインタビューや、旧「私の仕事館」への訪問調査を行う。

※具体的な地域や連携する団体

- ・高橋克忠 氏 (特定非営利活動法人けいはんな文化学術協会理事長)
- ・鶴飼雅則 氏 (精華町総務部企画調整課 プロジェクトコーディネーター)
- ・星屋泰二 氏 (きつづ光科学館ふおとん 館長代行)
- ・小川雅史 氏 (京都府立南陽高等学校 校長) など。

科目名：地理と古典を活かした京都の旅の創造と提案 A・B 担当者：安藤 哲郎

①学習者が現場で体験する内容

本講義では、京都の町の形成過程や構造、あるいは空間認識について歴史地理的に理解する。その際、様々な地図・絵図・史料に加えて、京都を舞台として作られた古典を用い、複眼的な理解へつなげる。その後、その理解を活かしながら、学生が新しい京都の旅のプランを創造し、それをもとに議論を行う。そのプランのうち実現可能性の高いものについて、長期休業期間等を活用しそのプランにもとづいて実際に町を回り、プランの課題等について再考する。

②学習者による主体的な活動内容

旅のプランを作るだけでなく、実際に町を見て回り、自分たちが設計した計画について検討を行う。また、実際に町を見て回ることで、本講義で得た知識の更なる定着を図る。

科目名：京野菜の栽培を習う 担当者：間藤 徹

①学習者が現場で体験する内容

本講義では、京都の農業についての座学に加え、実際の土作り、品種の選定、育苗から栽培、収穫まで一貫して実践することで、野菜栽培技術を修得するだけでなく、京都の伝統を支える「民の力」を体験し、地域社会の担い手のあるべき姿を学ぶ。

②学習者による主体的な活動内容

夏作物（ナス、キュウリ、ササゲ、トマト、カボチャ、スイカなど）から受講者が栽培したい作物を決めて、作付けから収穫まで行う。化学肥料、農薬を適切に使用する慣行栽培と化学物質を一切用いない有機栽培の両方を実践する。

※具体的な地域や連携する団体

- ・石割照久 氏（京都市南区吉祥院の農家）

科目名：京都学のための科学 担当者：小山田 耕二

①学習者が現場で体験する内容

本講義では、地域関係者へのヒアリングを通して、京都のかかえる課題を明らかにし、その課題を解決する方法をデザインする。デザインされた解決策をグローバルな視点も含めた形で評価し、その評価結果を反映させた解決策を当該地域関係者に提示して、その有効性について評価する。具体的には、今年6月に策定された「京都ビジョン2040」の項目をあるべき姿として、現状とのギャップを明らかにし、そこで認識された課題に対して解決策をデザインし、その有効性を検討させる。

②学習者による主体的な活動内容

情報収集（地域関係者による講義、討論・学術論文の検索と評価）、情報整理（アンケート調査の実施：学生、自治体、地域住民、観光客など対象）、情報分析・表現（Excelを使った情報分析、Wordを使った論文形式レポート作成、ピアレビュー、PowerPointによる発表）を実施する。

※具体的な地域や連携する団体

学生が設定したテーマにより様々である。必要に応じ、科目担当教員および地域連携教育研究推進ユニットがコーディネートを行う。

科目名：博物館で実践する地域とのつながり

担当者：大野 照文

①学習者が現場で体験する内容

本講義では、京都大学総合博物館というフィールドを活かし、地域の学校とのコラボの企画等、実践を通じて、地域貢献の意味について体感するゼミを行う。また、実際のアウトリーチ活動について企画から実践、評価までを実際に行い、社会貢献のあり方について実地に学ぶ。

②学習者による主体的な活動内容

京都大学総合博物館におけるアウトリーチ活動について企画から実践、発表を行う。

科目名：京都の文化を支える森林：森林の持続的管理に関する地域の知恵と生態学的知見からの検証

担当者：徳地 直子

①学習者が現場で体験する内容

本講義では、大学で森林と人間の関わりに関する歴史的知見ならびに森林生態系に関する生態学的情報について学ぶ。さらに、そうした座学に加え、上賀茂試験地・芦生研究林において、森林がどのように管理され、人々がどのように森林を扱ってきたかを現地で聞き取り調査を行う。また、現在全国的にも森林生態系を大きく変化させているシカの影響について、京都市南丹振興局と協働で芦生研究林においてシカ被害防除に関する実習も行う。

②学習者による主体的な活動内容

演習林の活動についての聞き取り調査、および関係者と共同した森林保全活動の実習を行う。

※具体的な地域や連携する団体

- ・京都市南丹振興局

科目名：京滋の在地に学ぶ実践型地域研究

担当者：安藤 和雄

①学習者が現場で体験する内容

本講義では、東南アジア研究所の実践型地域研究推進室が取り組んでいる京都府、滋賀県の在
地（農村）で協働事業として取り組んできた京滋フィールドステーション事業を中心にその活
動の内容に在地に学ぶ楽しさと必要性を学ぶ。具体的には、各関係者による講義に加え、美山
町佐々里集落において参加型農村調査と農村支援活動を、ブータンのシェラブツェ大学教
員・学生らとともに1週間程度実施し、国際協働実践を通じて地域に学ぶ。

②学習者による主体的な活動内容

ブータンのシェラブツェ大学教員・学生らとともに美山町佐々里集落における聞き取り調査
を実施する。

※具体的な地域や連携する団体

- ・保津川遊船スタッフ
- ・プロジェクト保津川メンバー
- ・美山町知井振興会事務局長
- ・美山町佐々里集落区長
- ・守山市美崎自治会会長 など。

科目名：ブータンの農村に学ぶ発展のあり方

担当者：安藤 和雄

①学習者が現場で体験する内容

本講義では、王立ブータン大学シェラブツェ校において、同校を受け入れ先として、参加型フ
ィールド講義を行う。形式は集中講義として、ブータンの歴史や農村、農村開発に関する座学
1日、フィールドワーク実習を5日、最終日の1日にかけて本講義で掘んだことを発表するワー
クショップを実施する。座学とワークショップはシェラブツェ校で、フィールドワークは、同
校が立地するブータン国タシガン県の農村部で実施する。宿泊地は同校ゲストハウスとゲオッ
ク（行政村）の役場、農家を予定している。また、ブータンのシェラブツェ大学の若手教員と
学部生を京都府下の中山間山村である南丹市美山町知井振興会に招き、日本の過疎・離農の問
題の現状とその問題への取り組みを同じく学んでもらう。南丹市美山町知井振興会におい
ても座学1日、フィールドワーク5日、最終日の1日にかけてワークショップを実施する。

②学習者による主体的な活動内容

農村の課題についての聞き取り調査、および参加者同士のワークショップを行う。

※具体的な地域や連携する団体

- ・南丹市美山町知井振興会
- ・王立ブータン大学シェラブツェ校

科目名：学校論ゼミナール

担当者：西岡加名恵

①学習者が現場で体験する内容

本講義では、学校現場においてポートフォリオ評価法を実践する過程に参加することを通して、ポートフォリオの活用法、さらには学校における実践作りへの貢献の仕方について学ぶ。

②学習者による主体的な活動内容

「連携・協働する学校におけるポートフォリオ検討会へ参加」、「ポートフォリオ検討会についての振り返りと追加調査ふまえ、今後への提言をまとめる」、「連携・協働する学校へフィードバック」を実施する。

※具体的な地域や連携する団体

- ・京都府立山城高等学校
- ・京都府立園部高等学校
- ・京都市立堀川高等学校 など

科目名：京都の地域リソース実践学

担当者：渡邊 洋子

①学習者が現場で体験する内容

本講義では、京都府の生涯学習拠点施設として今後の活用が期待される京都府立ゼミナールハウス（京都府京都市右京区京北下中町鳥谷2）を足場とし、同施設の周辺地域（京北地域）における自然環境や伝統文化、地場産業等について、フィールドワークや実地訪問、地元住民の方々へのインタビュー調査、関連文献や各種データなどをもとに、地域の実状への理解を深め、地域リソースの掘り起こしとその活用・共有・継承などの可能性を共同で検討し、実践的方策に関わる自分たちなりの提言ができることを目指す。

②学習者による主体的な活動内容

インタビュー調査、データ分析と検討、それらを踏まえた提言書の作成を行う。

※具体的な地域や連携する団体

- ・京都府立ゼミナールハウス

科目名：理学と社会交流Ⅰ・Ⅱ

担当者：常見 俊直

①学習者が現場で体験する内容

本講義では、既存の社会交流活動の紹介や、理学の各分野と京都とのつながりについての学ぶ。さらに関連団体と連携して、小学校における科学体験イベント等の社会交流活動を実際に企画・運営する。

②学習者による主体的な活動内容

企画・運営側として、科学体験イベントに参加し、実際に社会交流活動を行う。

※具体的な地域や連携する団体

- ・綾部市立豊里小学校
- ・京丹後市立島津小学校
- ・大山崎町立第二大山崎小学校
- ・大山崎町立第二大山崎小学校
- ・八幡市立さくら小学校 など。

2-2- I. 教育・指導方法の特徴

<特色要素の設定>

【名称】総合学際力

【定義】自身の専門分野にとらわれず、複数分野からの複眼的視点から社会問題を検討できる能力。また、他分野の専門性を持つ人間と円滑に協力ができる能力。

<教育・指導方法の特徴>

本プログラムでは、全学共通科目を中心として科目設定を行っているため、各科目において文理問わず様々な学部の学生が受講をする環境にある。そうした様々な専門分野が異なる学生がいる中で、グループワークを行うことにより、多種多様な人間と協力し、また、社会問題に対し分野を超えた複眼的視点からの検討をすることができ、これらの能力を養うことにつながるといえる。

また、各科目においても環境問題等、人文科学のみ、社会科学のみ、自然科学のみだけでは解決が困難なテーマを設定し、研究者に限らず様々な分野の専門家からの講義を実施するなどして「トランスサイエンス」の重要性を認識させる設計となっている。

2-2-II. 学習アウトカム・教育要素・科目の相関表

			資格教育プログラムで設定する学習アウトカム		
			知識 (6-1-1、6-1-4)	技能 (6-2-1)	職務遂行能力 (6-3-2)
教育要素	基本要素	情報把握力	<ul style="list-style-type: none"> ・京都創造論 ・地理と古典を活かした京都の旅の創造と提案 ・京都学のための科学 ・京都大学の歴史 ・日本史 ・総合生存学入門 ・環境学 ・街中の美「京都の看板」 ・自然と文化ー農の営みを軸にー ・理学と社会交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都創造論 ・京都学のための科学 ・自然と文化ー農の営みを軸にー 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都創造論（グループでのフィールド調査を企画・実施することで、計画立案能力・組織運営能力を養う） ・地理と古典を活かした京都の旅の創造と提案（旅のプランをグループにて企画することで、計画立案能力・組織運営能力を養う） ・京野菜の栽培を習う（グループでの実習を行うことで、組織運営能力を養う） ・京都学のための科学（課題抽出、仮設設定、調査、分析、論文執筆の一連の作業を行うことで、計画立案・実演力を養う）
		分析企画力	<ul style="list-style-type: none"> ・文化・科学一体型コミュニケーション論 ・総合生存学入門 ・環境学 ・街中の美「京都の看板」 ・学校論ゼミナール 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化・科学一体型コミュニケーション論 ・地理と古典を活かした京都の旅の創造と提案 ・京野菜の栽培を習う ・博物館で実践する地域とのつながり ・京都の文化を支える森林 ・京滋の在地に学ぶ実践型地域研究 ・学校論ゼミナール ・京都の地域リソース実践学 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館で実践する地域とのつながり（京都大学総合博物館をフィールドに、実際に博物館の活動について立案することで、計画立案能力を養う） ・京都の文化を支える森林（グループでの実習を行うことで、組織運営能力を養う） ・京滋の在地に学ぶ実践型地域研究（グループでの実習を行うことで、組織運営能力を養う）
		実践力 (AL要素を含む科目)	<ul style="list-style-type: none"> ・京野菜の栽培を習う ・博物館で実践する地域とのつながり ・京都の文化を支える森林 ・京滋の在地に学ぶ実践型地域研究 ・ブータンの農村に学ぶ発展のあり方 ・京都の地域リソース実践学 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都創造論 ・京野菜の栽培を習う ・京都学のための科学 ・博物館で実践する地域とのつながり ・京都の文化を支える森林 ・京滋の在地に学ぶ実践型地域研究 ・ブータンの農村に学ぶ発展のあり方 ・学校論ゼミナール 	<ul style="list-style-type: none"> ・京滋の在地に学ぶ実践型地域研究（グループでの実習を行うことで、組織運営能力を養う） ・学校論ゼミナール（グループでの実習を行うことで、組織運営能力を養う） ・京都の地域リソース実践学（グループでのフィールド調査を企画・実施することで、計画立案能力・組織運営能力を養う） ・理学と社会交流（グルー

				<ul style="list-style-type: none"> ・京都の地域リソース実践学 ・理学と社会交流 	プでの実習を行うこと で、組織運営能力を養う)
	特色要素	総合学際力	<ul style="list-style-type: none"> ・京都創造論 ・文化・科学一体型コミュニケーション論 ・京都学のための科学 ・総合生存学入門 ・京滋の在地に学ぶ実践型地域研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都創造論 ・文化・科学一体型コミュニケーション論 ・京都学のための科学 ・京滋の在地に学ぶ実践型地域研究 	

2-3. 対象とする学習者と開講形態

<想定する学習者>

- ・基本として、本学の学部生（主に1～2回生が中心）。
- ・将来的には科目等履修生等の制度を利用し、社会人の受講生等の受け入れも検討中である。

<開講形式>

- ・基本的に全学共通科目として開講し、一部科目については学部提供科目となっている。
(※学部提供科目として提供している科目についても、全学部の学生が受講可能である。)
- (※科目の受講だけであれば大学院生等の想定する学習者以外も履修可能である。)

2-4. 学習者への周知

学習者への周知として、主に以下の活動を行っている。

- ・年度初めの各学部にて行われる一回生向けの履修指導において、本プログラムについてのガイダンスを実施している。
- ・配布物として、A4 一枚もののチラシ、三つ折りパンフレット、本プログラム該当科目のみをまとめたシラバス集を作成した。それぞれ資格教育プログラムの目的、教育目標、科目内容、開講形態、成績評価方法等について記載をしている。
- ・専用ホームページを作成し、講義概要等を掲載している。
- ・各科目の初回オリエンテーション時に、当該科目が本プログラムの中の科目として位置づけられていることをアナウンスし、資格教育プログラムの目的や修了要件について説明を行っている。
- ・facebook において日々の活動報告を行い、具体的にどのような活動を行うのかイメージができるように情報発信を行っている。

3. 学習効果の測定

3-1-I. 成績評価方法と学習者への明示

各科目には本プログラムの資格取得希望者以外の学生も受講をしているため、各科目の単位授与のための成績評価方法の決定については、各科目担当教員が責任を持って決定する。そのため、成績評価方法は科目ごとに様々であるが、基本的には、科目の形式に従い、出席状況、受講態度、筆記試験、レポート試験、プレゼンテーションの内容等を必要に応じて総合的に判断する。

成績評価方法の明示についても、資格取得希望者以外の学生も受講をしているため、基本的に単位授与のための評価方法については、シラバスに記載することで明示を図っている。また、より詳しい成績評価の方法については、各科目の初回オリエンテーションにて、科目担当教員より受講生に向けてガイダンスを実施する。オリエンテーションでは同時に、当該科目が本プログラムの中の一科目として位置づけられていることについてもアナウンスを行い、資格取得のための修了要件についての説明も実施する。

3-1-II. ポイント認定の基準

本プログラムが提供する各科目の成績評価で 60 点以上の評価を受け、各科目の単位を取得したものに對し、1 単位を 1 ポイント換算で認定する。

ただし、各科目には本プログラムの資格取得希望者以外の受講生もいることから、それらの受講生が自動的にポイントを取得することが無いよう、資格取得希望者には学習者ポートフォリオの記録を必須とし、学んだ内容について各々が振り返り、自己評価を行うようにする。

資格取得希望者は、各科目の成績表とポートフォリオを地域連携教育研究推進ユニットに提出し、提出物の内容を踏まえ当ユニットが最終的にポイント認定の判断を行う。ポートフォリオの形式は、地域公共人材開発機構が提示する推奨モデルを使用する。

3-2. 外部機関との連携と評価

外部機関と連携した科目において、レポートやプレゼンテーション等の受講生が作成した成果物に対し外部機関が一定のコメントを付すことはあっても、最終的な評点については科目担当教員が責任を持って実施する。

そのため、外部機関が直接的に受講生の評価を行うという仕組みは実施しない。

3-3- I. 学習アウトカムを評価する基準と方法

本プログラムが提供する各科目の成績評価で 60 点以上の評価を受けたものについて、それぞれの科目で想定された学習アウトカムが達成されたと推定する。また、資格取得希望者には学習者ポートフォリオの記録を必須とし、学んだ内容について各々が振り返り、自己評価を行うようにする。なお、ポートフォリオの形式については、地域公共人材開発機構が提示する推奨モデルを使用する。

最終的に資格取得希望者は、各科目の成績表とポートフォリオを地域連携教育研究推進ユニットに提出し、提出物の内容をプログラム実施責任者が確認をした上で、学習アウトカムが達成されたかどうか判断を行う。

3-3- II. 学習アウトカムの評価結果の活用

学習者ポートフォリオの内容については、本プログラムの科目担当教員全員に対しフィードバックを行う。各教員は、学習者ポートフォリオの内容を踏まえ、年度末に作成する各取組の報告書において次年度にむけた講義の改善内容について記載するとともに、科目担当教員が集う会議において各講義の今後の取組・方向性について報告を行う。

各講義にて想定されている学習アウトカムの達成度について、学習者ポートフォリオの結果が著しく低い科目がある場合には、地域連携教育研究推進ユニットと当該科目担当者が協議の上、今後の講義のあり方について検討を行う。

4. 資格教育プログラムの管理・運営体制

4-1. 管理・運営体制

本プログラムについては、地域連携教育研究推進ユニットが事務局として管理・運営を行う。主な事務手続きについては、同ユニットに所属する教員およびリサーチ・アシスタントが担当をし、最終的な実施責任は同ユニット長が担う。

各科目の担当教員は、同ユニット下に置かれる実施委員会の委員となり、定期的に関われる会議（2か月に1回程度を目安に必要に応じ開催。特に年度初め及び年度末には、当該年度における各科目の方針の説明、実施内容の詳細報告を実施）に出席し、本プログラムについての共通認識の形成を図る。また、会議のほか、各科目担当教員は、年度初めに「年次計画書」、年度末に「年次報告書」を作成し地域連携教育研究推進ユニットに提出する義務を負う。また、同ユニットは、当該書類を取りまとめ各担当教員に配布を行うことで、更なる共通認識の形成を図る。

さらに、各教員の日々の取り組みについて、各教員単位でホームページにて報告できる仕組みを作成し、それぞれの教員の活動について同ユニットおよび各科目担当教員が日常的に確認できるようにする。また、同ユニットに所属する教員は、各科目の取り組みについて出来る得る限り視察を行い、事務局として各取組の実態を正確に把握するように努める。

4-2. 科目内容の点検・改善

3-3-IIにて記述したように、学習者ポートフォリオの内容について、本プログラムの科目担当教員全員に対しフィードバックを行う。各教員は、学習者ポートフォリオの内容を踏まえ、年度末に作成する「年次報告書」において次年度にむけた講義の改善内容について記載するとともに、年度末にて開催される実施委員会において講義の今後の取組・方向性について報告を行う。

これに加え、資格取得希望者以外の受講者についても、最終講義日に授業評価アンケートを実施し、受講生の意見を広く集めることで授業内容の点検を行い、改善につなげる。授業評価アンケートについては地域連携教育研究推進ユニットが作成する。

なお、各講義にて想定されている学習アウトカムの達成度について、学習者ポートフォリオの結果が著しく低い科目がある場合には、地域連携教育研究推進ユニットと当該科目担当者が協議の上、今後の講義のあり方について検討を行う。

4-3. 学習者からの異議申立

各科目の成績評価に対しての異議申立については、資格取得希望者以外の受講生との公平性について考慮し、京都大学が全学的に実施している異議申し立ての仕組みをそのまま利用する。詳細については、下記 URL に記載されている。

<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/information/show/1265>

ポイント認定に関する異議申立については、ポイント認定の結果が受講者に通知されてから2週間の期間において、地域連携教育研究推進ユニットがメールにて受け付ける。異議申立がなされた場合、同ユニットの教員が異議申立者と面談を行い、異議申立人の意見を聴取する。その後、プログラム実施責任者の判断のもと、文書にて異議申立人へ結果を通知する。

5 教員及び講師

5-1 教員及び講師の構成

本プログラムは「世界交流首都・京都」という未来像の実現に貢献できる人材の育成を行うという目的のもと、受講生各自の専門分野を超えて知識を吸収し、京都が抱える課題について多面的に観察・分析できる力を修得させること、さらに、現場の実務家との交流を通じて、それらの知識を実践に活かし、応用できる技能・職務遂行能力を養うことをその教育目標としている。

まず、京都の未来を考える懇話会が提言する「世界交流首都・京都」の実現のためには、「世界の文化首都・京都」「大学のまち・京都」「価値創造都市・京都」という3つの柱が重要視されており、本プログラムの科目内容もこれらにつながる設計が必要となる。

さらに、専門分野を超えた知識、多面的な観察・分析力の習得という教育目標の達成には、人文科学・社会科学・自然科学それぞれの専門性に立脚した科目の設定が必要不可欠であり、全学的な教員の協力が必要となる。また、それらの知識を実践に活かす能力を育成するにあたっては、京都をフィールドとして、地域課題に実際に取り組んでいる教員の協力も必要となる。

以上の点に鑑みて、全学的に強力教員を公募し、その教育活動が本プログラムの趣旨に合致すると考えられる以下の教員による科目設定を行った。

○地域公共政策士としての基本的なマインド、基本的な調査手法の提供

- ・京都創造論（高見茂 教育学研究科）
- ・京都学のための科学（小山田耕二 国際高等教育院）

○「世界の文化首都・京都」→「歴史」「観光」「都市景観」「食」

- ・地理と古典を活かした京都の旅の創造と提案（安藤哲郎 地域連携教育研究推進ユニット）
- ・京野菜の栽培を習う（間藤徹 農学研究科）
- ・日本史（西山良平）
- ・街中の美「京都の看板」（池田聖子 国際高等教育院）
- ・自然と文化―農の営みを軸に―（竹田晋也 アジア・アフリカ地域研究研究科）

○「大学のまち・京都」→「教育」「大学の社会交流」

- ・ 京都大学の歴史（西山伸 大学文書館）
 - ・ 総合生存学入門：人文・社会科学における京都の知・世界の知（泉拓良 総合生存学館）
 - ・ 博物館で実践する地域とのつながり（大野照文 総合博物館）
 - ・ 学校論ゼミナール（西岡加名恵 教育学研究科）
 - ・ 理学と社会交流（常見俊直 理学研究科）
- 「価値創造都市・京都」→「環境」「まちづくり（けいはんな学研都市、京都北部）」
- ・ 文化・科学一体型コミュニケーション論（高見茂 教育学研究科）
 - ・ 環境学（酒井伸一 環境科学センター）
 - ・ 京都の文化を支える森林：森林の持続的管理に関する地域の智慧と生態学的知見からの検証（徳地直子 フィールドセンター）
 - ・ 京滋の在地に学ぶ実践型地域研究（安藤和雄 東南アジア研究所）
 - ・ ブータンの農村に学ぶ発展のあり方（安藤和雄 東南アジア研究所）
 - ・ 京都の地域リソース実践学（渡邊洋子 教育学研究科）

5-2 教育及び講師に関する指導能力の説明

職名	種別	氏名	ふりがな	性別	年齢	担当科目目名 (ポイント数)	担当科目に関連する学歴、学位、資格、実務経験等を説明して下さい。
教授	第1号	高見 茂	たかみ しげる	男	63	京都創造論 (2ポイント) 文化・科学一体型コミュニケーション論 (2ポイント)	京都大学大学院教育学研究科修士課程教育方法学専攻修了 教育学修士 京都大学 助教授 (1988年4月～2001年3月) 京都大学 教授 (2001年4月～) 京都府 新しい地方行政の未来研究会 座長 (2011年3月～) けいはんな文化・科学コミュニケーション推進協議会 代表 (2012年4月～) 等
非常勤講師	第1号	安藤 哲郎	あんどうてつろう	男	35	地理と古典を活かした京都の旅の創造と提案 A (2ポイント) 地理と古典を活かした京都の旅の創造と提案 B (2ポイント)	京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程共生文明学専攻修了 博士 (人間・環境学) 京都大学 助教 (2013年4月～2014年3月) 滋賀大学 講師 (2014年4月～)
教授	第1号	間藤 徹	まとう とおる	男	60	京野菜の栽培を習う (2ポイント)	京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了 農学博士 京都大学 助手 (1982年4月～1996年3月) 京都大学 助教授 (1996年4月～2005年3月) 京都大学 教授 (2005年4月～)
教授	第1号	小山田 耕二	こやまだ こうじ	男	54	京都学のための科学 (2ポイント)	京都大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻修了 博士 (工学) 日本アイ・ビー・エム株式会社 (1985年4月～1998年3月) 岩手県立大学 助教授 (1998年4月～2001年3月) 京都大学 助教授 (准教授) (2001年4月～2003年7月) 京都大学 教授 (2003年8月～)

教授	第1号	西山 伸	にしやま しん	男	51	京都大学の歴史 (2 ポイント)	京都大学大学院文学研究科修士課程国史学専攻修了 文学修士 京都大学 助手 (1993年4月～2001年3月) 京都大学 助教授 (准教授) (2001年4月～2013年3月) 京都大学 教授 (2013年4月～)
教授	第1号	西山 良平	にしやまりょうへい	男	62	日本史 A (2 ポイント) 日本史 B (2 ポイント)	京都大学大学院文学研究科修士課程国史学専攻修了 文学修士 京都大学 助手 (1980年4月～1987年3月) 京都市立芸術大学 講師 (1987年4月～1991年3月) 京都大学 助教授 (1991年4月～1997年3月) 京都大学 教授 (1997年4月～)
教授	第1号	泉 拓良	いずみ たくら	男	66	総合生存学入門：人文・社会科学における京都の知・世界の知 (2 ポイント)	京都大学大学院文学研究科修士課程考古学専攻修了 修士 (文学) 京都大学 助手 (1976年4月～1984年3月) 奈良大学 講師 (1984年4月～1985年3月) 奈良大学 助教授 (1985年4月～1993年3月) 奈良大学 教授 (1993年4月～2004年3月) 京都大学 教授 (2004年4月～)
教授	第1号	酒井 伸一	さかい しんいち	男	59	環境学 I (2 ポイント) 環境学 II (2 ポイント)	京都大学大学院工学研究科修士課程衛生工学専攻修了 工学博士 京都大学 助手 (1984年4月～1995年3月) 京都大学 助教授 (1995年4月～2001年1月) 国立環境研究所 廃棄物研究部 部長 (2001年1月～2001年3月) 国立環境研究所 循環型社会形成推進・廃棄物研究センター センター長 (2001年4月～2005年3月)、京都大学 教授 (2005年4月～)
教授	第1号	大野 照文	おおの てるふみ	男	63	博物館で実践する地域とのつながり (2 ポイント)	ボン大学 (西ドイツ) 理学博士 京都大学 助手 (1986年4月～1990年3月) 京都大学 助教授 (1990年4月～1997年3月) 京都大学 教授 (1997年4月～)

教授	第1号	池田 聖子	いけだ せいこ	女		街中の美「京都の看板」(2 ポイント)	サンフランシスコ大学 M. A(第二外国語教育) サンフランシスコ大学 M. A(MBA) 環太平洋観光協会 教育部長 (1985年1月～1989年6月) 米リアルティインベストメンツ社 会長補佐 (1990年6月～1992年8月) フリーランス通訳・翻訳/編集/リサーチ (1992年8月～2005年3月) 龍谷大学 非常勤講師 (2005年4月～2007年3月) 平安女学院大学 特任講師 (2006年4月～2008年3月) 平安女学院大学 准教授 (2008年4月～2009年3月) 平安女学院大学 教授 (2009年4月～2012年7月) 京都大学 教授 (2012年8月)
教授	第1号	徳地 直子	とくち なおこ	女		京都の文化を支える森 林: 森林の持続的管理に関 する地域の知恵と生態学 的知見からの検証 (2ポイ ント)	京都大学大学院農学研究科博士後期課程林学専攻修了 博士 (農学) 京都大学 助手 (1991年4月～2001年3月) 京都大学 助教授(准教授) (2001年4月～2013年3月) 京都大学 教授 (2013年4月～)
准教授	第1号	安藤 和雄	あんどう かずお	男		京滋の在地に学ぶ実践型 地域研究 (2ポイント) ブータンの農村に学ぶ発 展のあり方 (2ポイント)	京都大学 博士 (農学) 京都大学 助教授 (1997年4月～)
准教授	第1号	竹田 晋也	たけだ しんや	男		自然と文化―農の営みを 軸に― (2ポイント)	京都大学大学院農学研究科博士後期課程熱帯農学専攻修了 農学博士 京都大学 助手 (1989年4月～1991年3月) 京都大学 講師 (1991年4月～1998年3月) 京都大学 准教授 (1998年4月～)

准教授	第1号	西岡 加名恵	にしおか かなえ	女		学校論ゼミナール (2ポイント)	バーミンガム大学大学院教育学研究科博士課程修了 Ph. D (Education) 鳴門教育大学 講師 (1999年10月～2004年3月) 京都大学 助教授 (准教授) (2004年4月～)
准教授	第1号	渡邊 洋子	わたなべ ようこ	女		京都の地域リソース実践学 (2ポイント)	京都大学 博士 (教育学) お茶の水大学 文部教育助手 (1990年4月～1993年3月) 法政大学 非常勤講師 (1991年4月～1995年3月) 新潟中央短期大学 講師 (1995年4月～1999年3月) 新潟中央短期大学 助教授 (1999年4月～2000年3月) 京都大学 助教授 (准教授) (2000年4月～)
講師	第1号	常見 俊直	つねみ としなお	男		理学と社会交流Ⅰ (2ポイント) 理学と社会交流Ⅱ (2ポイント)	東京大学大学院理学系研究科博士課程物理学専攻 博士 (理学) 2011年4月～ 京都大学 講師

6 教育プログラムの特徴

6-1 資格教育プログラム概要

本学にて実施する京都学教育プログラムでは、京都が抱える課題を、グローバルな視野のもと学際的・複眼的に捉え、京都の新たな可能性を創造し、それを実現することを通じて、「京都ビジョン 2040－30 年後の京都の姿」においても提唱されている「世界交流首都・京都」という未来像の実現に貢献できる人材の育成をその目的としている。

こうした人材の育成を担う取組として、本プログラムは、越境講義科目群「まなびよし」と越境実習科目群「いきよし」の二つの科目群から設計されている。越境講義科目群「まなびよし」では、学内での講義およびグループワークを中心に、各自の専門分野を超えて様々な知識を学習し、京都の課題について多面的に観察・分析できる力の習得を目指す。越境実習科目群「いきよし」ではフィールドワークを中心に、現場の実務家との交流を通じて、それまで学んだ知識を実践に活かし、応用できる技能・職務遂行能力を養う。

6-2 特色ある取り組み

本プログラムの最大の特色としては、学際的・複眼的な視点の重要性を積極的に認識させる設計になっていることが挙げあげられる。

各科目において、一定の学問領域のみでは解決が困難なテーマを設定し、各科目担当教員も含め、様々な分野の専門家からの講義を実施することで、一つの学問分野だけからの視点ではなく人文・社会・自然科学それぞれの視点から地域課題を考察する機会を提供しており、複数の科目を受講することで、地域課題の解決にあたっては分野を横断した「トランスサイエンス」的な考え方が重要であることを認識させる仕組みをとっている。

さらに、本プログラムは、全学共通科目を中心に科目設定を行っているため、各科目において文理問わず様々な学部の学生が受講をする環境にある。そうした様々な専門分野が異なる学生がいる中で、グループワークを行うことにより、多種多様な人間と協力し、また、社会問題に対し分野を超えた複眼的視点からの検討をすることができ、これらの能力を養うことにつながるといえる。

その他の特色としては、海外事例と京都の地域課題の比較研究を通じて、グローバルな視点から地域課題を考察する力を養う科目も積極的に取り入れている点が挙げられる。日本人・地元住民としての視点からだけでなく、国際的な研究を学び、国外の人々と交流を行う機会を提供することで、国際的な視野から日本や京都の良さ・課題を再認識し、地域課題を検討する際において新たな知見を得ることができる。

このように本プログラムは、学生に、学際的に、そして、グローバルに考察することの重要性を認識させ、複眼的に課題を検討する力を養うことを特に重視したプログラムであり、その点に特色があるといえる。

